

研究タイトル：

江戸時代中後期の俳諧研究



氏名：	芳賀多美子 /HAGA Tamiko	E-mail：	haga@numazu-ct.ac.jp
職名：	教授	学位：	修士(文学)
所属学会・協会：	日本近世文学会, 俳文学会, 上智大学国文学会		
キーワード：	近世文学・江戸文学・俳諧・芭蕉・蕪村		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> ・芭蕉や蕪村の俳諧を味わうことによって、日本の伝統文化や慣習への理解を深め、言語感覚を豊かにします。 ・地元沼津地区における俳人の活動を通して、江戸時代末から明治初期の人々の生活・文化・精神的背景を探求します。 		

研究内容：江戸時代中後期の俳諧研究

江戸時代は、製紙技術・印刷技術の躍進により、庶民が文芸に勤しむようになった時代です。中でも、俳諧は「座の文学」と呼ばれ、庶民から武士・大名に至るまで多様な階層の交流が見られる文芸です。職業も、商人・医者・歌舞伎役者など多種多様。俳諧の作品を読み解くことで、その時代に生きた人々の息づかいを感じることができます。

よく知られる俳諧史は、芭蕉・蕪村・一茶をもって語られますが、「座の文芸」である以上その彼らの背景にある俳壇抜きに語ることはできません。江戸俳壇・京都俳壇・その他地方俳壇の俳人たちを包括的に見つめることで、ドラマティックな俳諧史が見えてくると考えています。

研究の核は、芭蕉没後の変遷を経て、蕪村が本格的に活動した京都俳壇の全体像を含めて蕪村をとらえていくことです。蕪村の活躍した時代は、日本各地で「芭蕉にかえれ」という蕉風復古の気運が高まっていました。芭蕉を知り、後世の人々が芭蕉をどうとらえたか、その流れの中で蕪村はどう生きたのかなど、様々な視点からの考察を考えています。

また、江戸時代末期から明治にかけて地方における蕉風復古運動の中で、地元沼津駿東地区の俳人たちが京都俳壇への投句や俳書出版などの俳諧活動を精力的に行った実態についても調査研究しています。(三島市郷土資料館蔵書調査)

近年は、「文理融合」の観点から、学生たちとのプロジェクトとして「文学館」や「埋蔵文化財展示館」などへの展示企画協力をを行っています。(昨年度から「長泉町井上靖文学館」展示企画に協力中)



提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)